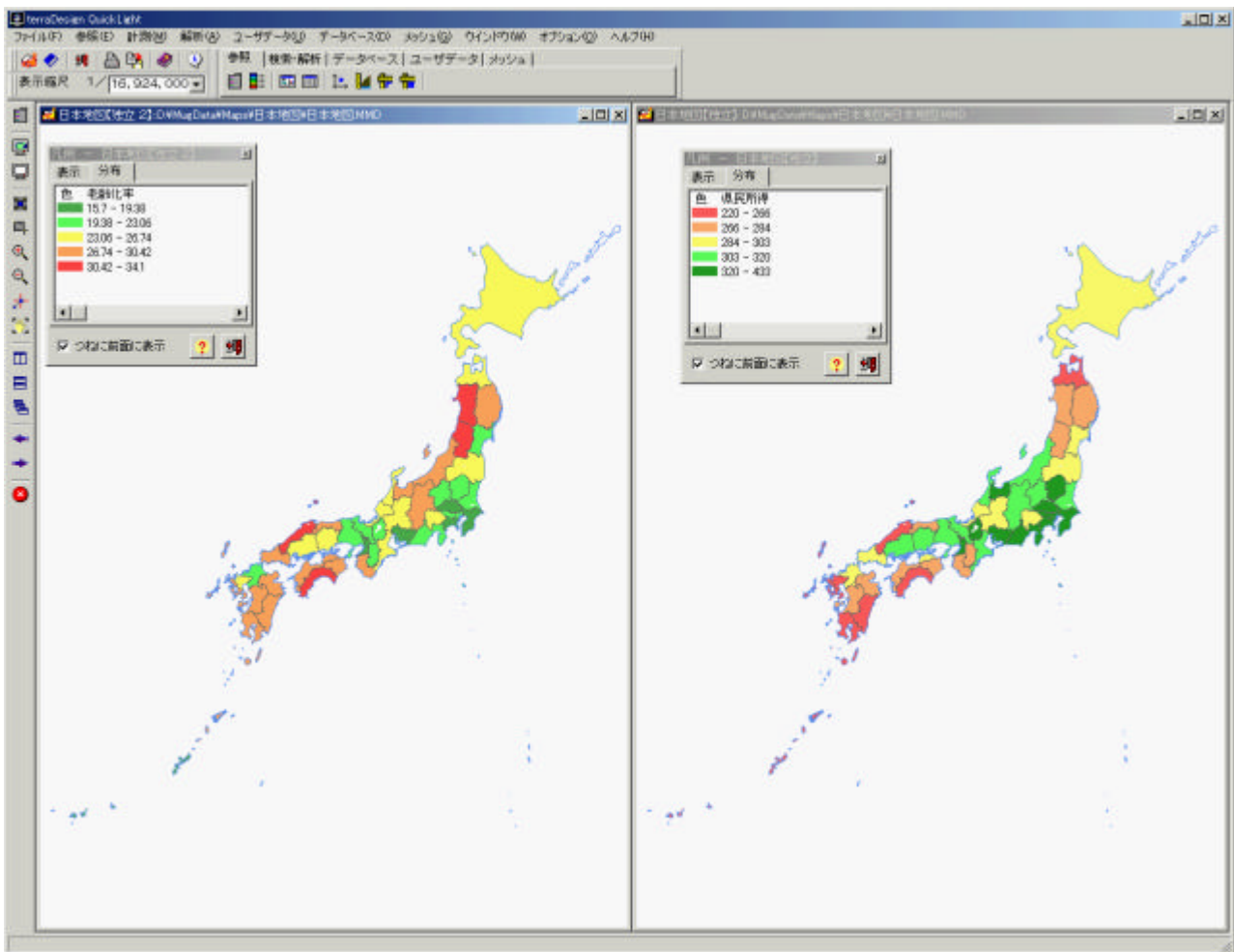


## データマップを作る

インターネット、身近な資料、さまざまなところにはいろいろな統計データが存在します。それらの統計データを数字としてだけ眺めていても気がつかないことが、分布図として一つ一つを塗り分けることで、いろいろな特徴や共通性に気がつかされます。データマップは地図が正に視覚的言語であることを物語ってくれます。



### データマップ例

日本地図を利用した図例では、左のマップに都道府県別の高齢化率を描いています。右のマップには県民所得を描いています。2つの地図を見比べると

- ・高齢率が高いと県民所得が低いといった傾向が見られます

- ・その中で新潟、長野等の幾つかの県は高齢率が高いにも関わらず県民所得は低くありません。

このデータマップの先には、高齢化率が高いのに県民所得が低い県の「理由」が知りたくなります。データマップは新たな視点や次の視点に誘ってくれます。

## データマップの作り方



### データの収集

インターネットや、資料からいろいろな統計データを入手します。

総務省の「統計データ <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/index.htm>」<sup>1</sup>なるほどデータ for キッズ <http://www.stat.go.jp/kids/index.htm>」を始め各省庁、都道府県、市区町村のホームページにはいろいろな統計データが用意されています。

CSV や EXCEL のデータ形式でダウンロードすると後の利用にも便利です。

入手した統計データを整理します。

入手（ダウンロード）したデータの中には必要のないデータや注釈があればこれらを削除して整理します。データを正しく読み込ませるためには、CSV や DBF のデータ形式に整える必要がありますが、EXCEL やフリー（無料）で入手できる CSV エディタを使えば簡単に整理できます。



### terraDesign での操作

terraDesign にデータを取り込みます。

CSV や DBF のデータ形式に整理された統計データを terraDesign を利用して地図のデータとして（テーマに）取り込みます。前述の図例では「日本の統計（財）統計情報研究開発センター発行」から都道府県別年齢別人口を取り込み利用しています。

取り込みの方法には「データテーブル編集機能」を利用してマニュアルで項目（フィールド）を追加し一つ一つデータを入力していく方法と、「データ取り込み機能」を利用して必要なデータ項目を一括で読み込む方法があります。

取り込んだ統計データを利用して塗り分けをします。

「分布図の編集」機能を利用すれば図例のようなデータマップが簡単に作成できます。このときに老齢化率の項目が直接用意されていない場合でも、「分布図の編集」に用意されている「項目間演算」を利用して老齢化率を65歳以上人口/総人口と指定することで、老齢化率の分布図の作成ができます。

同じようにして必要な分布図を作成していきます。

データマップの完成です